

平成29年度第1回新温泉町総合教育会議議事録

- 1 日 時 平成29年5月9日（火）午前8時58分～10時51分
- 2 場 所 浜坂多目的集会施設会議室
- 3 出席者
(構成員) 岡本町長、田中教育委員長、北村教育委員長職務代行者
中井教育委員、大林教育委員、岡本教育長
(事務局) 西村こども教育課長、宇野こども教育課課長補佐兼教育総務係長
- 4 欠席者
(事務局) 川夏生涯教育課長
- 5 傍聴者 1名
- 6 会議録署名人
岡本町長、田中教育委員長
- 7 協議・調整事項
 - (1) 教育に関する大綱の改定について
 - (2) 浜坂認定こども園整備検討状況について
 - (3) その他

***** 開会 午前8時58分 *****

○宇野こども教育課長補佐兼教育総務係長 それでは、少し早いですが、おそろいですのではじめさせていただきます。おはようございます。お忙しいなかにもかかわりませず、お集まりいただきまして、ありがとうございます。

本年度、平成29年度第1回の新温泉町総合教育会議ということで開催いたします。この会議ですが、平成27年度から始まりまして、地教行法の法律に基づき開催するものです。本日傍聴者のほう、兵庫県教職員組合美方支部の村尾さんのほうがお越しです。御了承願います。どうぞよろしく願いいたします。

それでは、主催者であります町長より御挨拶を申し上げます。

○岡本町長 委員の皆さん、改めましておはようございます。

ツツジの花が大変きれいに咲く季節になりました。青葉が本当に目にしみる、そんないい季節であります。委員の皆さん方には、大変お忙しい中をこうして御参会を賜りまして、厚くお礼を申し上げますとともに、平素から教育行政、それぞれ大変な御

尽力をいただいておりますことをあらためましてお礼を申し上げる次第でございます。

先ほど、司会のほうでございましたけれども、地方教育行政組織法が27年に改正、施行されました。はや3年目になります。本日は地方教育行政組織法によりまして、それぞれの自治体の長がこういう形で教育総合会議を主催することになりまして、これが大体、年に2回開催をさせていただいております。皆さん方の御意見を賜りながら、町の教育とともに認識を一致させながら、相互の執行側と理解を深めていくという趣旨であろうというふうに思っております。

きょうは、特に第2期の基本計画が3月に策定されましたこと、それに伴いまして町の教育大綱を定めたいということで、本日御案内を差し上げたところでございます。聞きますれば、11時までには、まあまあ、閉じたいというような思いも持っておりますので、どうぞひとつ、限られておりますけれども、時間が、闊達な御意見を賜りまして、適切な結果を得られますように御配意をお願い申し上げまして、一言、冒頭、お礼の御挨拶をさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

○宇野こども教育課長補佐兼教育総務係長 ありがとうございます。

続きまして、田中教育委員長、お願いします。

○田中教育委員長 おはようございます。きょうは、本年度最初の総合教育会議ということで、ある面では心待ちにし、ある面では何を語り、どんな方向が出るのかなというふうな楽しみでもあるわけでございます。

さて、4月から教育委員会事務局のほうにも頑張ってもらいまして、各学校のほう、それぞれの新しいメンバー、新しい子供を迎えた組織の中でスタートしていると思います。その中で、ちょっと余談なことをお話ししたいと思います。学校は真っ先に決めるのは、願いがあってそれを実現するために学校の、簡単に言うと時間割りを決定します。時間割りと同時に1日の生活の流れを決定していきます。で、その流れを1年間通すことによって、季節によって変える場合もありますけれども、その願いの実現に向けていこうというふうなことをやっているわけですが、その中で、皆さん授業の始まりは皆さんそれぞれの時代で違うと思います。何によって授業の始まりをしたか。私の小学校のときには、用務員さんが、からんからんからんって鐘を鳴らしてくれて、その鐘の音で、ああっ、何時間目の授業が始まったとか終わりだとか昼だとか知りました。でも、私も学校現場で、それがいつしかいろんなものがチャイムというふうな音楽によって動いた、メロディーによってと。

ところが、今学校の中で、全てそういう生活リズムがチャイムで動いているんでしょうか。そんな意識で学校を見られたことはありますか。あれ、鳴っていないじゃないかという学校もあると思います。忘れとるんかなと思ったりもすることがある。かと思えば、反対に、日曜で誰もいないはずなのに、学校でチャイムだけが、たんたんたらたら鳴っている学校がある。いろんな現実があると思いますが、実は、チャイム1つ、一番生活の基盤なのにそれをなくそうというふうなことを私たち現場でやっております、ノーチャイムと言われているんですね。各委員さん、何でだと思いませんか。一番生活の中で時間を守れ、何とかって言われてるのに、それをとってしまおうという。実は、そこには、今の教育の中、教育長が一番目指している部分もあるけども、私たちのほうにも、子供たちがみずから考え判断し行動する、この言葉の中の一つに、結局、他に流されて、物に促されて自分が、あっ、授業が始まった、終わった、生活、次は遊び時間が終わったから教室入らなあかん、手を洗わなあかん、掃除に行かならん、それをみずから、あっ、時計が大体これぐらいだから、次はこうせなあかん。自己判断、自立への一つとして取り組まれたのがノーチャイムだと思います。だから、これは学校によって全部違うと思います。教育長、今は全部違うんですね。ノーチャイムでやっているところもあれば、部分的にやっているところもあるし、全面的にそれをやろうというところもあるし、いやいや、そういう体制では、子供は、うちの子は育たんから、チャイムを普通どおりやろうという学校もある。教育ってそんなふうになってると思います。それぞれのところで目指すものについて、各学校の中でそれぞれの思考の中で方策を練って具現に向けて取り組んでいって設けておられると思います。

私たちは学校訪問させてもらいますけども、きょうの会議でもそうですけども、私たちの町の子供たちは、どんな方向に向かってという方策についての一助になろうかと思えます。そんな思いで私たち教育委員としましては、町民の目線で、それこそ今いろんな目線のもとにいます。目線で、子供たちをどんな方向づけの中で育てていただくのがよいか、そんなふうな思いで見つめていけたらと思えます。きょうは、町長と一緒にそういうことを共通に語れる場ということで期待をしています。どうぞよろしくお願いいたします。

○宇野こども教育課長補佐兼教育総務係長 ありがとうございます。

そうしましたら、協議・調整事項のほうに入りたいと思います。以降の進行は町長

のほうからお願いいたします。

○岡本町長 それでは、私のほうから議事を進めさせていただきます。

まず、第一の教育に関する大綱の決定についてをお諮りをいたしたいというふうに思っております。皆さんのお手元に皆さん方の大変な御努力の中で、第2期の新温泉町教育振興基本計画があるというふうに思います。3月に教育委員の皆さん方が決定をされたものだというふうに思っております。中身的には皆さんの御協議の中で、非常に網羅的にしっかりと町の目指すべき教育の中身を定めておられるというふうに思っております。

つきましては、この第2期の基本計画をもって町の大綱というふうに決定をさせていただきたいということで御提案申し上げるところでございます。皆さんの御意見を求めたいというふうに思っております。

非常に重い沈黙が支配しておりますけれども、私としては、これで十分ではないかなというふうに思っているんですけど。

○田中教育委員長 じゃあ、私から1点。この大綱について、全容を見せていただいたりして、私たちも見たんですけども、まず基本的に現状では、本当にいろいろ施策を練っていただいとるんですけども、少子高齢化というのがもう教育のどうするのかの現状の中にやっぱり根強くあって、ここを無視しての教育というのはあり得ないという中で、特に私たちが思っているのは、少子のほうですね、高齢化でなくて少子のところの問題なんで、町として大綱の中にもうたっておりますけども、実際の取り組みとして、幼、小、中の連携ということをかなり強く意識した計画になっていると。特に幼の部分ですね、こども園という形にして、その連携と、特に事務局のほうでもそこと小学校へのつなぎの段階、連携の部分、これに力を入れているところで、これについては、非常に僕は、うちの特色の中でも大事にせなあかん部分じゃないかと思えます。

それともう1点は、逆に、ややもすると、中学校まで教育委員会の教育というのはそこで意識が薄れていく、次へ送りますよという高校があるわけですけど。ところが地元の高校に対して、私たちは町としてそこで学ぶ子供たちについても教育的な視点と熱い期待を込めて高校への連携という形の中で具体的なものをやっていく。実はさっきの話にありましたけども、浜高で麒麟獅子の取り組みがテレビで放映されていたよという話がありましたように、非常にありがたいことだと思う。けども、その情

報が町民にうまく伝わってないという。私もたまたまテレビ番組を見て知ったぐらいで。もっともっとそこへ具体的な取り組みがお互いに共有できて、より高めていくような、そういう実践についてこれから高めていってほしいなど、取り組みの方向として私は大綱の中で各校、幼、小、中、高というその辺を大きく見た目で教育を本町で進めていただけるということについては、非常に感謝しているし、方向性の中でもやっぱり大切であると思っています。以上です。

○岡本町長 中井委員、どうでしょう。

○中井委員 大綱として教育振興基本計画の中に書かれてる内容については、今までずっと話をさせていただき、お決めいただくことなんで、このことについてどうの思わないんですけども、ちょっと道がそれてあれなんですけども、前回、温泉小学校の入学式に行かせていただいて、そのときの入学生が22名、照来小学校が10名ぐらいだと思うんで、旧の温泉で32名か前後だろうと思います。32名というのが、私が照来小学校に入学した当時が2クラスあって、それを1クラスにする。全町、旧の温泉町で全体で照来小学校の半分しか生徒がいないと。町内の人口を見ても、合併後で2,000人前後ぐらい、これは新温泉町に限ったことじゃなくて全国的な流れで、地域の時代と言われながら、実際は地域はずっと人口が減っているという現状で見ると、これから子供がこだけ減って、子供を育てるといって、子供の成長する過程として、過程といいますか、町として新温泉町の魅力が持てるような状況になるんだろうかということが、ちょっと第一にあって、これから余りにも話がずれてしまっていてあれなんですけども、やっぱり日本全体が人口が減っていくとすれば、その中でこの新温泉が残っていくという、教育、子育ての面で充実した町として残っていくとすれば、ほかの町、地域間競争であることは間違いないと思うんです。美方郡であったり、但馬であったり、山陰であったり、その中で育てる町として選ばれる町になるかどうか。と考えたときに、確かに、例えば医療については中学までは無償になったり、そういうことがあるんですけども、もう少しこの基本計画にないところなんですけども、育てる環境として、医療のことだけ言っても高校ぐらいまで無料化するとか、そういったことで、例えばそれが結果として浜高の入学者を維持していくということにつながるかもしれませんし。なのでもう少し、何か周辺の町と、東京に勝とうとは思わないけども、この近辺の町の中で選ばれる町になるための教育環境の整備といいますか、そういう工夫ができないかなと。もう基本計画そのものは申し分ないと、委員会、勝

手に思っ取るんですけども、そういうことをちょっと、近年、たかだか50年と言いながら、自分が生まれてから50年、これからじゃあ50年って大きく変わっていくんだろうなというところがあって、おくれればせめてこの種のことは考えていただけないかなというのは。変にずれてしまいました、済みません。

○岡本町長 本当に私自身も大変な危機感を持っておるんですけど。

御指摘のように、そういった教育環境を整えていく、特に幼児教育を含めまして、そういった意味では、ある程度施策の先取りというようなことを積み重ねてきたような思いを持っ取るんですけども、なかなか、それが比較されながら浸透してないとか、今言われた医療費の関係であったり、29年から、実は近隣の町では、高等学校まで無料にいたしました。そういうことで一歩先じたわけですけど、その町は実はずっとおくれとおったんです、この3、4年、やっと無料化して、中学校まで。29年から高校も加えたような格好。ある市なんかはまだ全然、もうそこまでさわってませんので、全くおくれとるといったらおかしいんですけど、おくれとる。次の報告事項とも関連するんですけど、こども園等々の待機の関係であったり、そういう面でも一定程度は子供の急激な減少という中で、待機児童もそういうことも要因して待機者ゼロというような、これはゼロ歳児の問題がありますけれど。そんな関係やいろいろなことで、それが何ていうか、実際に子供を持っておられて、豊岡から転勤でこっちに来られたとか、そういう人はようわかっとなるんですけど。なかなかこの町におんなる人が、それが客観的にどうなのかということまでしっかり認識していただけてないという面もあるというふうに思っております。

ただ、御指摘のように、少子化ということについては、実は平成27年の国勢調査の結果を見て、私も大変驚いたんですけども、出生率が1.4だったんです。大体1.8、1.76ぐらいあったんですけど。平成27年の国調結果では1.4という数字が、1.42だったかな。県下の平均より下になってしまいましたね。何でだろうなと思ったら、27年の出生数自体が非常に少なかったということと、それから、実は外国から来とられる適齢期というか15歳から40歳か、そういう女の人はかなりふえとるんですわ。ですから22年の国調のときのそういう外国から来た方々というのは70人ぐらいだったんですけど、27年の国調では120人ぐらいになっておりまして、中国やベトナム、それからカンボジアだったかな、そこら辺の働きに来とる若い女の人がだっとふえとるんですわ。結構な数字になるんです、何十人という数字

は、そういう統計上では。そういう影響で極端に少なかったのと、そういう女の人らが来るということで、そういう分母と分子の関係で、急にそんな1.4というような数字が出て、私はすごく期待しとったんです、実は。まあ1.8ぐらいあるわいと思っと思ってね。ところが、結果論としてはそんなことで、1.4だか1.42でね。これはまあ、えらいことだと思ひましてね。人口そのものの減少の予測カーブは押し上げたんですけど、押し上げたって言ったらおかしいんですけど、そういう転入者が予想よりもある程度ふえとるといふか。そういう意味では、部分的にはよかったんですけども、出生率の関係ではそんな数字が出ておりました。

いずれにしても、1年で大体80人ぐらいですので、本当に厳しい状況だというふうに思っております。教育環境の整備とあわせて、やっぱり、どういふか、結婚できやすいようなそういう手だてといふか、そんなこともこれまで以上に力を入れていかなあかんといふのが思ひなんですけど、これは決定打がなかなかないといふか。だけどやっていかないと、ちょっと本当に私、本当言うと何といふか、一定、人口ある程度減少していって、何でもそうなんですけど、底っていふのがあると思うんですわ、そこそこなところに行くと。それはずっと、またそういう水準でずっと行くとは思ひなんですけどね。何らかの形でそれをどういふか、支えるような、そういうところをやっぱりやっていかなあかん、これまで以上にこの思いを持っとるんですけど。何か、私が長々としゃべりましたけど。

○西村こども教育課長 町長、よろしいですか。

今、町長のほうから、年間80人を目標といふことで、地方創生の戦略の中でも、年間の出生が80ぐらいが目標です。その目標を達成するために、出会い、結婚、それから妊娠、出産、それから保育、教育とそれぞれの段階で、先ほど町長が決定打がないと言ったんですけど、それぞれの段階で少しずつの継続した切れ目のない支援をしていくといふことで、その積み重ねで80を維持、目標といふふうな、で取り組んでおります。

今、小・中学校におきましては、大体100以上はおるんですけど、そこが、もう今、就学前の人口でいくと100を切って、本当にこれから下手をしたら80も切る、それを何らかの地方創生の戦略の中でしていくといふことで、今年度、29年度の子供教育の一つの事業といたしまして、今言いました出会いのところから、パンフレットでいろんな施策をこれまで、今、町長がおっしゃいましたけど、ほかの町よりすぐ

れた施策がありながら、それが保護者、住民に理解され、十分に理解されてないところがありましたので、パンフレットを作成して、それらについてこういう施策に取り組んでおるんですよということを、今年度その事業で取り組みたいというふうに思っているところでございます。ちょっと補足をさせてもらいました。

○岡本教育長 町長が言われたけど、本当に底が、底っていったらどこが底なんかということ、これからもある程度は今のままだっただけ上げていくということがあるとしても、もうここから先を減らしていかないという思いを基底に持ちながら、保育、教育というのをやっていくという思いでおるんですけど、人口そのものをどうするかという問題は問題として、その中で子供が少なくても、何ていうのかな、いい町、人が少ないけどもいい町という、そんな人口が何万人もふえていくなんてことはあるはずもないし、小さくても、少なくても、その中で人が豊かさを感じるというか、ふるさと教育ということがよく言われるわけですけど、この中で、この町に生まれて本当によかったな、振り返って大人になったときに、ああ、ここが私のふるさとだと思える、そういう町にしていくことと、そういう教育をしていくということだというふうに私は思ってるんですけども。

ふと今思い出したんですけど、うちの照来の中で一番へんぴなところが私の生まれたところで、子供3人おるんですけど、成人して大人になったときに、何が一番の思い出かと言ったら、学校もあるし友達もあるけども、一番の思い出は家から学校まで歩いて、学校から長い距離を歩いて、もうくたびれて帰ってきた、大変な毎日だったわけですけど、その行き帰りが一番の思い出だと、3人とも同じことを言うんですね。いろいろあるけどそれが一番の思い出。それは決して、一般的に見ればマイナスに見えるそのことの中に自分がここで育ったんだと言える一つの思い出は学校の行き帰りだと言うんですね。そこに、何ていうか、アイデンティティー、自分のよって立つもの、何か力みたいなものがそこにある。それが育っていく上の大きな力になってきたと。言えば、ちょっと大げさかもわからんですけども。だから小さくても、少なくてもいいなという、もう一つの大きな要素は、やっぱり人ですね。その中にあるいい人間関係ですね、人が人をつくるということの基本計画の一番の基本に置いているわけですけど、そういうような思いを持ちながら、この小さい町で、いい教育をしていくという、いい教育と言ったら何だということになるんですけど、その中のやっぱり基本教育というのは、人と人の関係づくりだということを中心にしながら、今の基本

計画の一番の柱はそこにある。

社会がこうしてすごく変化していく中で、先ほどありました少子化の中で、自分の生き方を育てていくというのを一つの基本、キャリア教育ということをよく言われるわけですけど。一方はどうなるかという。本当に自分自身が何をよりどころとして生きていくのかという、生き方がつかみにくいこの時代状況の中であって、そこをどう自分で生きていくか、そこには先ほども言いましたけど自分がいて、周りに人がいるというその関係の中で自分自身を高め、ともに学び合いながら、さらに自分自身を高め、ともに生きていくというそういったことを基本にした教育の推進ということだというふうに私は思っておりますので、この基本計画は1期と2期、何が違うかということなんですけど、何も特に変える必要もないし、変わってないと思うんですが、あえて言えば、より生きにくいというか、自分自身がどう生きていくかといったことが非常に捉えにくい、不安定な中を生きていくということですね。だから、自立と協働ということ、一言で言えばそうだと思うんですけど、それを基本にして決めるというふうに思っておりますので、何だわけわからん話になりましたけども、この基本計画、ちょっと何もかにもというふうな感じで、もっとびしびしと簡潔な内容というか、そういうもののスタイルというのもあると思うんですけど、基本はそういうことで行くと、これを受けながら、より見えにくい時代を生きていく子供たちを育てていくということだというふうに思っておりますので、御意見、たくさんください。ようしゃべりましたがよろしくお願ひしたいと思います。

○岡本町長 独演会にみたいになりましたね。教育委員会独演会みたいですけど。

私は大綱というのは、これとこれとこれっていう、それもあのかなとは思いますが、教育の全体像を明らかにして、それは余り変わらんとするんです、どんな時代が来ても。どんな時代っていったらおかしいですけど、3年や4年で変わるわけじゃないと思っております。それはその本来の基本計画なり大綱のあり方だと思います。そんなもん、ころころころころ変わるようなもの、計画でもないし、大綱でもないということです。そういう意味では、私はこれで十分だと。例えば今いろいろ話題になるとる道徳教育とか、あるいはそういったものを、じゃあ町ではどういうふうに進めていこうかという、それぞれの具体性の中にもっと細かいことが教育委員さんの話の中で決められたらいいという思いを持っておりまして、そういう意味での基本計画なり大綱というものはこれで結構かというふうに思っております。ですからよく話はわか

ります。

北村委員、どうでしょう。

○北村教育委員長職務代行者 私も全然畑の違うところをずっと生きてきていますので、こういう文言を見させていただくと、かなり固苦しいなというのが第一印象なんですけども。

基本計画につきましては、文言を読ませていただいても、すばらしいなというふうには思っていますし、これでよろしいのではないかなというふうには思っておりますが、先ほどちょっと前段に申しました、生きてきた畑が違うせいもあるのかもしれませんが、やっぱり捉え方が違って、それから解釈の仕方も、それからそれをまた誰かに伝えようと思っても手だても恐らく違ってくると思います。それは年齢によっても、経験によっても、立場によってもそれぞれ違ってくるんじゃないかなと思うわけです。今、小学校の先生、学校の先生が全般に若返りがすごく急激に進んでいます。その中で、今の我々と同等の方々が上のほうにいらっしゃるんですけども、その方々のやっぱり経験だとか、さっき中井委員が言われたように生い立ちだとか、それから教育長が言われたような生活の環境的なものだとかというのも全て違うと思うんですね。

ちょっと話がどんどんずれてしまいますけども、今回の浜坂高校の進学、ちょっと見させていただいたら、当たり前なことなんでしょうけども、僕たちのときに四苦八苦してた大学にすんなり入れる、そういうふうな状況が生まれてきて、今後もそういうふうな状況になってきているというのもあるような気がします。ですので、うち、僕は子供が3人いるんですけども、うちの子供たち今1人ずつで、長男なんかも、上の子、5歳になりますので、もうそろそろじゃないのみたいな話をすると、とんでもない話、もう十分と。なぜかと聞くと、やっぱり教育費の問題があって。そういうふうな時代の背景だとか、彼らの考え方だとかというのを思ってしまうと、そういうのも仕方ないかな。さっき申し上げた立場の違いだとか経験の違いだとかによって、僕たちの時代には兄弟が3人おるだとか、もう普通の話で、5人おるだとか言ってもそんな珍しくない話で。それで僕たちもそういうのを見てきて、親のそういうのを見てきているから、まあ3人はいるだろうみたいな。大学に行くのは当たり前だろうみたいな格好で、それが当たり前で生きてきたんですけど、今の子供たちは僕たちの当たり前が全然通じない。

これをどのように、じゃあ、次の世代の子供たちに伝えていくかということになっ

てくると、やっぱり学校の先生、教師が生徒に伝えるということが一番の接点といただきますか、我々がここで協議させていただいても、どんなに立派なものがここにでき上がっても、それを伝える者の感覚がやっぱり違っていけば違ったものに伝わったりすることになるんじゃないかなと思いますので、ここが第一段で、大綱であるんですけども、その次の段階をどうするのかということがこれからの課題になるんじゃないかなというふうに思ってますし、今の社会も、僕自身はあんまり、ひねた見方はしてんですけども、商売的にはおもしろくないんです。人口減って、売り上げも上がりませんし、大変な時代だなというふうに思ってますけども、すごく生きやすいんです、並ばなくてもいいし。さっき言ったみたいに混まないし。その上、生活にも困らないし、それからどこへ行っても、人口が少ないですから、特に新温泉町のどこの施設に行ったらウエルカムです。ある都市部の限られたところだけが混んでいるだけの話で。だからそういうふうな時代もいいんですけども、それでは限界集落というか、限界の町になってしまうのもう見えています。

それで、商売的な考えからすると、それでエリアを広げていろんなところから人に来てもらったって、大きな枠からすると取り合いですから、もうまさに何か行政が商売化してきたなみたいな感じで思ってしまうんですけども。でも、それにはやっぱり、僕たちが生まれて子供を育ててきた段階よりも、すごく今の世界というのは手厚くて恵まれていると思うんですよね。だから、教育委員をさせていただいて、学校訪問をさせていただいてびっくりしたのは、たったこれだけ、例えば20人足らずのクラスに先生が2人ついている、何じゃこれみたいな。どんだけ金があるんだみたいな。僕らのときには本当に、中学校のときなんかは、あれでも合併して1つになっちゃったんで、そういう危機感があったと思うんですけども、50人ぐらいが1つのクラスで、そこに先生が声張り上げて、何を伝えてるんだ、後ろのほう何を聞いているんだ、前の3人か4人ぐらいがちょっと聞いているぐらいの話で、そういう時代を過ごしてきたっていうので。今、全然教育の方法も違いますし、それから手厚さも違うし、それからさっき町長おっしゃられたように、どんどんと無償化、けども、おっきなお金を持っている、収益を上げれる、自治体といっても会社ですから、そういう自治体に対抗しようと思ったって絶対無理だと思うんですよね。

そこには、都会と違うものっていったら、もうこの環境しかないんで、僕は思うんですよ。だから、その環境をどうアピールして、どう生かしていくかっていうのは、

浜坂高校も1クラスになり、びっくりしたことに北小学校とか浜坂小学校というのも1年生が1クラス。もう、さっき言った80人というのは、それは何を根拠の80人なのか。あくまでも希望的な観測でしか僕には捉えられないといいますか。だからそういう状況をやっぱりよく打破するというのには、みんなで考えて、我々だけ考えて、上の者だけ考えてじゃなしに、やっぱり今子育てをしている方々も、それから子供たちも、それから、今新任で来られた先生なんかの意見も本当に十分に拝聴させていただいて、みんなの意見を集約して、活力をつけるしか手がないんじゃないかなど。もう手厚いのはうんざり、うんざりという言い方はちょっと失礼ですけども、もうどこにも聞くので、だから医療費だとか。そういう競争だけしてたって、財政が苦しくなってしまうだけの話なので、そうじゃなくて、やはり将来を見据えて、何がと言われるとなかなか難しい話になるんですけども。

商売的な考えから行くと、やっぱり、僕がやってる商売というのがすき間的な産業といいますか、だけでも大事なもの。そこをどういうふうに伝えていくかというの、僕らもすごく四苦八苦しています。新しいものを取り入れたり、いろんな考え方があるとかというのも聞いたりして、すごく四苦八苦している。でも四苦八苦していても、一つのは揺るぎないもので、その揺るぎないものを伝えていくというふうに、それしか、一つのを突き詰めていくしかないという。だから、教育も何となくそんな感じが、何年も教育委員をさせてもらっていて、そうじゃないかな。だけでもさま変わりはすごくしていますので、それで、ジェネレーションギャップ、僕たちも何か昔には新人類と呼ばれた時代なので、そういうふうなジェネレーションギャップがあって、それにそぐわないような内容もこの中には入っているなという。僕たちの、本当に子供が今、子供を育てている、そういう内容にはそぐわないような、要するに現実ではなくて夢が語られているような気がしますけども、彼たちはもっとうごく現実を見ているので、そういうところにも着目していただいて、この基本計画を生かしていただけるようなことになっていきたいなと思います。僕もただ取りとめのない話になってしまいました。以上です。

○岡本町長 大林さん、どうでしょう。

○大林委員 いや、そんな、皆さんが上手にしゃべった後で、私、しゃべれないんですけど。

私も済みません、これ読んで、本当に頭に入りにくいんですね。わからないんです

けど、大綱っていったらこういうものなのかなという感じなんですけど。何か本当に、確かにこれっていうのが何かなくて、わかりにくくってっていう感じでした。びっくりですけど、本当に北小の1年生が1クラスになったというのは。もう、ただただびっくりで。

私の子供の年代って、上の子はすごく少ないんですけど、下2人はすごい多い学年なんですね、新温泉町の中でも。なので、私、30過ぎてから子供3人生んだので、もう本当に町とか県とか国とかから表彰してほしいよなっていうぐらいのことを昔は言ってたんですけど、今の5年生、3年生ぐらいの子の同級生を見てたら4人兄弟って当たり前にいるんですね、とか5人とか、もう信じられないぐらいに。だからもう、そんな出生率が下がっているとも何か思えないんですけど、割りと一人っ子のほうが少ないです、1人兄弟とか2人兄弟とかのほうが。けども現実が一番下の子から2つ下の子の学年で35人ぐらいしかいないのかっていう感じなんで、もう、どうしたら子供がふえるのかとか、結婚しない同級生もいるんで、どうしたら結婚してもらえるのか、するのかとかというのを考えなきゃいけないと思うんですけど、先ほど町長が他の自治体から比べたら、すごいこっちのほうがいいんだよということをおっしゃってましたが、私、前、子ども・子育て会議で言われてたのが、岩美とか鳥取に出られる方が、浜坂から多いうんですよね。確かに鳥取なんかに出られる方、多いですよ。という、やっぱりそっちのほうが、何かいろいろいいと思う、聞くと。家を建てるのも安くつくんだとかね、いうのも聞くんなんです。だから、確かに県の職員の方でこっちに来られた方は、もう絶賛ですよ、新温泉町のことは。もう本当に、蛇口をひねったら温泉が出てくるし、温泉施設はいっぱいあるし、スーパーや図書館が車で5分圏内にあるところはほかにはないということで、本当に兵庫県のほかの地域のところから来られた方は絶賛されてますけど、そうやって鳥取に出られる方が多いうのは、やっぱり鳥取にも何かもつといいところがあるのかななんて思ったりもします。

○岡本町長 確かに、これも27年度の国調の結果なんですけど、鳥取に流出するのが大体300ぐらいあったんですけど、27年の国調の結果を見ると、それを押さえ込んで、150弱ぐらいになったんです。ほんで、今度は東に行くのも、それは流出を押さええて逆に29人だかプラスになった。豊岡、朝来、あっちに行っている、もちろん5年前の話ですよ。22年と比べたら、27年はそんなことで、鳥取に普通30

0 出るのが半分になったと。豊岡、朝来に行くのが逆にプラス 29 になったということで、これは道路の、だんだん道路状態もよくなるというようなことで、私もそれ見て驚いたんですけど、鳥取への流失はある程度押さえられたと、東からはプラスになったというようなことで。社会減もある程度押さえ込んでこれたかなと。むしろ鳥取県内は、ある意味では雇用の場で通勤可能の状態になってきたなというような思いを持っとるんですけど、そういうデータが出ました。

確かに、大林委員が言われるように、鳥取は地価が安いんですわ、土地が安いんですわ。ですから、鳥取近郊に土地を求めて家を建てるっていうのは、結構あるというふうに思っております。そういう面での鳥取の状況というのは感じておりますし、ただ、今の町の雇用環境を見ますと、兵庫県のほうが、どういいますか、最低賃金が高いもんですけえ、鳥取から逆にうちの町の企業に勤められるというのが非常にふえておまして、これも但馬全体なんかで 1.5 あるはずなんです、有効求人倍率。県下でもかなり高いんですけども、むしろ働き手不足で、そういう状況の中で、鳥取から働きに来るとというのがふえておるといことも聞いております。

特に、大林委員が言われた、県から来られた町に赴任された方々はすごい褒めるんです、この町のこと、図書館があると、そもそも。すぐ行けると。子供と一緒に行けると。何ちゅうええとこだいやというふうにいつも褒めていただくんですけども、なかなかそういったことが外向けで十分暮らしやすいところであるということがなかなか浸透できてないというのも事実ですし、なかなか、今、移住定住とか言われるんですけども、確かに移住定住していったために何が必要かということで、町としても住宅であったり、いろんな手だてを打っとるんですけども、なかなか移住定住というのは、難しいと思っとなんですが、簡単なものではないというふうに思っております。

移住定住、力を入れなあかんんですけど、私はやっぱり、その前提には、ここで育ておる子供たちにやっぱりこの町の、何ていうか、魅力というか、そういったものをしっかり教育をしてほしいなというふうに思っておるんです。我々も、私も教育長も 66 ですけども、過去を振りかえってみると、やっぱり中学生といっても、もう 15 歳か、14 歳か。あと 3 年か 4 年したら、立派な成人なんです。そういう子供たちにしっかり教育させることがまずもって大前提で、そういうことがありさえすれば、外から別に人に来てくれ、来てくれ言わんでも、ある程度の、どういいうか、人の人口

というのは、そういう点から力を入れていけば、私は確保できるんじゃないかなというふうには思っただけです。それがあって移住定住があり得るんだというふうに思っております。

そういう意味では、ふるさと教育であったりそういうことを大いに期待をしとるんですし、もう一つは、やっぱりこの町が、子ども議会をするんですけど、この町は君らのもんだと、そういう自治の精神というか、町の担い手としての教育というか、そういうことをやっぱりしっかり子供たちに伝えていくと。この町は君らのもんだ、ここが一番大事なところだというふうに私は思っております。そういう教育がないと、町が死んでしまいますからね。このところを何とか期待するところが、非常に大きなものがあるわけですし、つい何か、私も大変長い時間しゃべっております。

○田中教育委員長 ちょっといいですか。今意見を聞いて、かなり踏み込んだ話になるんですけど、具体化で言うと、私、仕事の関係でいろんなところからいろんな情報を聞いて、今の移住定住のことも現実にあるんで、今かかわっておりますし、町長も知ってはるとおりで、山口県からはるばる住みたいってことで、保護者の了解をとって、役場にもお世話になってというふうな話がありました。そんな人、いろんな話の中で、率直に聞くと、こんな言葉でございます。新温泉町ってどんなイメージって言ったら、おとなしいということ。自分のこと、一生懸命いろんなことがあるのに、おとなしくて言わない。来てみて、あっ、こんないいことがあるのに何で言わないのって。今の話とすごく共通するところある。こんなことがあるんです、来てみるとわからへん。来てみても教えてくれないからわかんない。それと、もう一つは、地元にいる人はこのよさを知らないですねという。全く同じようなことを言われる。私もその1人かもしれない。ということは、取り組んでいることが、僕、情報が共有できないと思います、町として、まだまだ。PRという言葉はいろいろあるけど、例えば今、期せずして町長がおっしゃったように、子供たちが自分のふるさと、全くそうだと思うんですよ。子供たちも含めて町民ですから。大人があつて子供たちが2軍じゃないんです。おぎゃあと生まれたときから、あなたが町民の位置にいるんですということですね。まさしくそうなんです。まだ意識がそこになってない、小学校、中学校。私が生きているそのものが町なんですという、その論理、言われるとおりだと思います。

しかし、なぜそうになってないのか。これは、学校の先生方にも多分聞いても、新温

泉町ってこんなところだと、こんなものを取り組んでいて、こんな課題があつて、こんなすごいですよということを聞いても、まず、残念ながら浸透してないと思います。これ、現実だと思います。ひらびてな言葉で言うと、情報共有ができてない。もっと言うと、PRができてない、意識ができてない。私自身もそうなんです、残念ながら。そういうところはおとなしいというイメージとすごく重なってる。結局、私なんか施設に入って見て思うのは、町立加藤文太郎図書館なんてすばらしいと思いますよ。しかも、みずからのところにありながら、両隣の町へ手を伸ばして、みんなで共有して行って、本という一つの媒体を通して知識を高め、生活を豊かにしますと、こんなところあるかっていうような。私はすごい共感しとんです。じゃあ、手を伸ばしたお隣はどうですかと、どう考えてるか。昔の、私が子供のころに、何かおいしいものがあつた、でも、自分とこだけじゃなくて、カボチャ1つでもですよ、炊いたら、隣にもちよつと、きょうはカボチャをうち炊いたから隣にも食べさせてあげよう。何かもらうと、例えば酒造会社の出稼ぎから帰ると、酒の粕を隣の家にもと。むしろ、町行政そのものも、それぞれは確かに個性もあり自立もせなあかんけども、他と共有したり、他の者を支援したり、そうすることによって互いがより豊かにというふうな施策がもっとあつていいんじゃないかと、そんなことをすごく思います。僕は加藤文太郎の取り組みはすごく、だからうれしいんです。だから、もっともっと、今の話で、私が思うのは、これは個人的な意見ですけども、学校にもそういう情報が欲しい。町のよさ、ふるさと教育をする、こんなよさがあつて、逆にこんな課題でやっているんだと。それで、一町民として、あなたは何ができる、何を考える。だから、すごい感動しました。子供たちに町民意識を持たせると。まさしく私、すごいと思います。持たせてない、私たち。あなたもこの町の一員で、あなたがいるからこの町の人口は何人ってカウントされるんですよ。まさしくそう思いますね。そんな意識を根底に置いて、私たちもっともっとそれらを踏まえていかなあかんのちゃうかなと、すごく思います。

もう一つは、私たちは、子供のころ、自分のことは自分でやれと、自力を高めろと、基本そうです。人に頼るな、他力を頼るな。でも、今の時代、そうなんですか。他力なんて当てにするな、世の中が何かしてくれるなんて思うな。自分でどんどんやれよと、私、子供のころそんなんでした。違いますね、今むしろ、他力、自力について、ある新しい共助、共力というのがある、ともにの力。共力の時代だという。これこそ

まさしく駄じゃれみたいな強力だというふうなことを言ってる、本にもありますが。結局、他力も大いに結構、自分についてやっぱりプラスにしたり、また自分も逆に言うと、他に与えることによって、余力を与えることによって、他も高まるとかね。まさしく、今のうちの町の中で育つ子供たちにはそんな力をつけてやりたいなというふうな思いがあります。

いろいろいいましたけど、私、ものすごく、きょう、感動したのは、そうだ、町長の言われるとおりで。子供1人もこの町のあなたが構成員なんだと、組織人。これはぜひ、学校の教職員に伝えたいなと思います。そして、勤めているあなたも町の1人の構成員だという。今いてる足元をみんなで作っていきましょうという、何か、そんな思いがすごく感動しました。済みません、要らんこと言って。

○岡本町長 いえいえ。

大体、御意見も出尽くしたようで。まだ足らんかもわかりませんが、どうでしょう、この2期の基本計画をもって町の大綱にかえさせていただきたいと思いますが、御異議はございませんか。（「異議なし」と呼ぶ者あり）

そういうことで、異議がないようでありますので、教育に関する大綱は、第2期のこの新温泉町教育振興基本計画をもってさせていただきます。

次に、浜坂認定こども園整備検討状況について、御報告を申し上げます。

事務局より報告をさせます。

○西村こども教育課長 それでは、資料の1ページをお願いいたします。

浜坂認定こども園の整備についてということで、前回の総合教育会議、昨年11月の末でしたので、それ以降の動きを中心に報告をさせていただきます。

まず、1ページで検討の経緯ということで、5行目から、とりわけというところで、津波対策ということが今回の一番の改築整備の目的であるということが、今改めて重要なことだというふうに思っております。浜坂認定こども園は53年の5月の建築であります、大庭のほうは49年の2月ということで、建築年度からしたら大庭のほう古いんですが、先ほども言いましたように、津波対策ということで、先に浜坂のほうに取り組むというふうな状況でございます。

では、次のページをお願いします。2ページで、選定方針ということで、真ん中あたりから、選定基準については4点、それから、具体的重点項目については6点を上げております。一番最初に選定基準のほうでは、安全で安心な園生活ができる場所と

ということが規定でされておりますし、重点項目の2点目には海拔のことが書いてあります。3.4メートル以上が確保できるかと。これらを中心として、選定方針に従って、検討委員会での検討もしてきたところです。

それから、3ページのほうで、6番目の、1月の18日に検討委員会として、3カ所の建てかえ候補地の選定を行っております。2月の8日には検討報告書の案ということで、3カ所を報告するという決定をいたしまして、翌日2月の9日に正副委員長で町長のほうに3案の報告をしているところでございます。

それから、次に4ページに行ってくださいまして、選定経過ということで、フローでその流れを記載をしておりますが、左と右で移転の建てかえ、それから、右側が既設のかさ上げの建てかえということですが、これも協議をして、これはもう移転の建てかえということで、ずっと流れを示しておりますが、町長への報告ということになっております。

それから、次に5ページをお願いします。5ページには建てかえに向けての流れということで、左側が整備検討委員会の取り組み、それから、右側が事務局の28年度からの経過を示しておりますが、事務局のほうで、先ほど3カ所を町長に報告ということがあったわけですが、右側に行きまして、建てかえの候補地選定審査会ということで、町の、行政の中でその3点から1つに選ぶ審査会ということで、副町長を代表といたしまして、その審査会でいろんな要素を勘案する中で、最終候補地、浜坂すこやか広場というものを決定をしております。3月議会に候補地の報告を行い、現在、地元、宇都野町であったり、関係団体ということで、体育協会のほうからは要望書、意見という形で出てきております。浜坂すこやか広場が、現在、野球、サッカー、グラウンドゴルフ等、利用者がございますので、それらについて、いかにそれら、利用されている方の対応策を考えるかということで、その協議を現在しておるところでございます。今後の予定といたしましては、基本設計、それから実施設計に取り組んでいくわけですが、あくまでも地元であったり、団体との一定の合意を見てからでないと、これには着手できないということで、予定といたしましては、今年度、実施設計につきましては、工事費5億をベースとした実施設計の予算についても予算措置をしているところでございます。実際の工事着手については、今、30年度に着手というふうな目標で、スケジュールとしては考えているといったところでございます。

それから、次に6ページをお願いします。6ページには、浜坂地域の周知の埋蔵文

化財包蔵地ということで、埋蔵文化財の存在が知られている土地のことを、周知の埋蔵文化財包蔵地というふうに言います。すこやか広場についても、このエリアに含まれておりますので、事前の届け出、あるいは試掘の調査ということが、文化財の保護法で決まっておりますので、実際工事着手までには、こういった対応もしなければならぬというふうになっておるところでございます。

それから、少しちょっと言い漏らしましたので、5ページに戻っていただきまして、事務局の一番上のところで、12月の補正予算にて既存の浜坂認定こども園耐力度調査費の計上ということで、耐力度調査というものを実施しております。現有、現在の建物が、いわゆる老朽化等によって、今後どれぐらい老朽化の影響が出ているかというふうな調査で、これを踏まえた中で、耐力度がないというふうに判断された場合に、国のほうから補助金がもらえるというふうなことで、補助金については原則3分の1というふうな補助で経営されているところでございます。

かいつまんだ説明になりましたけれども、園の改築につきましては、現在そのような状況ということで報告をさせていただきました。以上でございます。

○岡本町長 体協のほうから、議会宛てと私宛てにそういう意見書というか要望書だったか。それが提出されました。一応、教育委員会にも。

○西村こども教育課長 教育長宛てにも。

○岡本町長 もうそんなことで、ちょっと。いずれにしても、この5ページの、候補地の選定過程で3つに絞られまして、それで最終的に一つに絞ったわけで、そんで3月議会の常任委員会のほうに報告させていただいたんですけれども、地元のほう、それから、今言う体育協会、もうそこでそういう、すこやか広場ではいけんと違うかという状況が今、そうなおるところということで、いずれにしても、3つの候補地があったんですが、いずれも100点満点というのではないわけでありまして、候補地を絞る中で、それぞれの候補地の、それぞれの特有の課題というもんが当然あるわけで、その課題を解決する形で提案していくというのが、私どもの基本的な立場であります。今はそういう格好で地元の説明、それから、体育協会に対する説明をしていくということに、今そういう説明の体制ができたということで、これからそういう説明に入らせていただきたいなというふうに思っているところでございます。何か十分な説明、報告にはならんですけど、そんなところで。

○岡本教育長 100点満点のところはもとからないんで、その課題を整理し、地元

や関係者、団体のほうにも理解をしていただきながら、こども園も、地域の方のみんなの防災拠点であり……。

○岡本町長 確かにな。

○岡本教育長 地域の大事な場所だというふうな思いも当然ですし、そういったことも含めて、そういった問題を整理し、いいこども園ができたなど、お互い、ある意味では辛抱し合う部分では、やりくりしということの中で、全体で、本当によかったなと言えるふうに何とか持っていきたいなという思いです。そうはいつでも、いろいろとこだわりを持って、また言われる方もおられるでしょうし、とにかく皆さんの言われることには耳を傾けながら、しっかり説明させていただきながらいきたいなというふうに思っております。

○北村教育委員長職務代行者 ちょっとおたずねしてもいいでしょうか。

○岡本町長 どうぞ。

○北村教育委員長職務代行者 耐力度調査の実施はされたわけで、その結果とかは出ているんですか。

○西村こども教育課長 耐力度調査を実施しまして、基準が示されているんですけども、その基準よりも、いうと耐力度がないっていう基準、点数になっておりますので、それを今、県と、持って行って、それで、その結果を持っていかせていただいたと。ですので、耐力度がありませんので、新しいものが必要だということで、進めておるところです。

○北村教育委員長職務代行者 じゃあ、補助金はいただける方向だと。

○西村こども教育課長 はい、その方向で。

○岡本教育長 課長、さっき言われた、そんな3分の1も出ないでしょう。

○西村こども教育課長 3分の1というのは。

○岡本教育長 幼稚園部分。

○西村こども教育課長 幼稚園部分。

○岡本教育長 幼稚園部分の3分の1だと。

○西村こども教育課長 そういう意味です。

○田中教育委員長 全体ではなく。

○西村こども教育課長 はい、園児の数、1号、2号、3号とある人数に幼稚園部分のみがこれの対象になるということですので。

○岡本教育長 でも、わずか。4, 000万かな、はじいたら。そのぐらい出るかどうか。どうかなと思って。

○岡本町長 わずかでも、ないよりましだし。

○岡本教育長 さあさあさあさあ。

○西村こども教育課長 要は1号から3号まであるんですけれども、1号、2号が対象になって、3号は対象にならないということですので、約80%になります。だから、80%を掛けた中で、そこから3分の1ということになります。

○岡本町長 何だしょぼいな。

○西村こども教育課長 基本的には保育園の整備については、国は私立には補助するけれども、公立には補助しないというのがもう基本になっておりますので、せめて幼稚園部分というところでもらえるという。

○岡本教育長 私立なんかね、ごっつい補助がね、入ってますから。

○西村こども教育課長 国としては私立をふやしたいという流れです。

○岡本町長 保育園、幼稚園というのを、基本がもう既に、公立とかそういうものではなくって、株式会社でも参入できるような、そういう状況になって、幼児教育なり、そういうものの公の施設整備であったり関与というものが、だんだんだんだん削られてきとるのも実際ですし、小泉改革のときに、そもそもからして、そういう、もう一般財源の中に、もうそんなもん全部放り込むというようなことで、なかなか難しい状況ではあるんです。

そもそもが津波対策ということで、ここに冒頭書いてありますように、兵庫県が27年度の11月に5メートルの津波高を想定しました。非常に遅きに失しておるんですけれども、29年度をかけて、それぞれの海岸部の具体的なシミュレーションをしていくということで、詳細な結果が30年、あるいは31年ぐらいには出るというふうに思っております。そこら辺のギャップが、最初から5メートルという想定が出ておりましたら、こがいな苦労はせんでもええわけですけれども、日本海の地震、津波については、兵庫県、非常におくれをとっておって、結果論として、こういう補助の形しかちょっとできないわけですけれども、いずれにしましても、3.1の高さの、海岸部に接したこども園では、有事を想定するととんでもない事態になるということで、できるだけ早いうちに安全なところに新築したいという思いの中で、きょうまで進んできたわけですけれども、先ほど申し上げましたように、1の選定で、それに絞

り込んだ中で新たな課題が生じておると、それについて今、代替案をもって地元と、それから、関係団体なるのかどうかわかりませんが、皆さんのお手元にあると思いますけれども、体育協会にも理解を求めるというアクションをしていく段階になりましたということでございます。つきましては、体育協会についての基本的な代替措置と申しますか、一つは、浜坂中学校に照明も設置しまして、野球であったり大人のサッカーであったり、そういったものは中学校でやっていただく。それから、小学生のサッカーについては浜坂小学校でも可能だと、少年野球とバッティングもしないと。それから、もう一つは、老人会のグラウンドゴルフですけど、これは今のこども園の解体撤去の後の、グラウンド化すれば、それで十分だということでありまして、そういう対応をしていこうということで、あと、すこやか広場に新校舎を設置しましても、当然グラウンド部分は残るわけでありまして。それは何ぼだったいな、3分の1か。

○西村こども教育課長 今現在の現行の敷地が3,500ぐらいですので、すこやかの3分の1ぐらいしか園舎は占めない予定ですので。

○岡本町長 それは何平米になる、グラウンドが。

○西村こども教育課長 グラウンドは4,000何ぼ。

○岡本町長 4,000のグラウンドが残るんだな……。

○西村こども教育課長 残ります。

○岡本町長 残るんだな。それはもちろん地域の皆さんの防災訓練であったり、そういうものには当然使っていて結構ですし、それから、そこでのグラウンドゴルフであったり、そんなことも日曜日であったり休日であったりは当然できるし、子供らの授業中にできるかどうかちょっとわかりませんが、そんなところも調整しながら、今、表になっておる具体的な課題については説明していこうということにしとるところであります。

○田中教育委員長 この問題について、今、これ読ませてもらいまして、これは事前に教育長からも聞いてましたんであれですけども、行政的な流れの中で手続に何らいけんて言われる、ここはええとか、隠蔽しようとかいう意識のないことははっきりわかっておりますし、それはいいんですけども、やっぱり当初から言っているみたいに、私、逆の視点もね、どうしても行政的に隠蔽がみたいな、つくろうとする、そこである程度意見の摩擦が起きる、でも、それをクリアして行って、何とか理解していただいてという。例えて言うと、この計画にしても、例えばですが、一般市民からいうと、

選定基準の中に、例えばこんなふうに周辺地域、関係者の理解が得られることで、これはこのとおりでいい、これはやっぱり行政用語だと。市民目線は、町民はこうは言わない。理解はもちろんだけども、そして、その人たちの支援が得られたり、協力が得られることが望ましい。もう一つ踏み込んでいく。できればよいというふうに読み方にしたらとっちゃうわけですよ。やっぱりおまえらが中心やないかと。そうじゃなくて、私たちにも何ぼかメリットがある部分がある努力をしますよというような形で。そうすると具体的に言うと、私は、この施設設備は、今のこうやってできたときに住民の方々には、今まで使っていたことと同等のことができなくなって不便を感じたり、不満を感じることもあるかもしれない。しかし、ここに来たときには子供たちと地域住民との触れ合いの場を、あなたたちが一番よくできるところになるんですよ。教育的にもそういう効果的なほうが、お互いがプラスになる、そういう園運営や、教育の方法論にも趣向を凝らしていきますよみたいなことの、プラス点のものがあってもいいんじゃないかなと。だから、理解してくれ、何とかするからしてくれ、大事なことから、これは非常に大事な基盤だと思いますけども、と同時に、ここへ設置させていただけることによって、少なくともプラス点と、いや、だから、それは金銭、物、事っていうことをよく、今も言います。物、事、金のことを言いますが、物ではない、人でもない、心の豊かさのプラス点がここへ何らかの形でついてきますよみたいなね、そんな辺の思いの部分もやっぱり教育委員会ですから、教育委員会の関係ですからね、課長、そのへんのところは含めてほしい。何とか理解してくれ、相手側に説得するばっかしではなくて、あなたたちにもプラス点が、それら起こることをやっぱり考えていきましょうよと。だから、僕は最初言ったみたいに大いにできたことによって、地域との交流がより盛んになって、地域住民との交流、その高齢者との交流、そういうものがほかのところよりも、ここにあるから、より私たちが一番よくできるみたいな、生きがいを感じてるみたいな、騒音だ何だということばかり、確かにマイナス点もありますけども、そんな視点も欲しいな思っています。全く実際にこの方針に関係ありません。思いだけです。以上です。

○岡本教育長　そういうことを含めて、本当に開かれたというか、できてよかったなというこども園にしていけないけんなと思っています。

○西村こども教育課長　今は地元にしても、団体にしても言っておられるのは、土地ぐらい、今使っるところを使わんでも何ぼでもあるんと違うんかっていうのを、思

っておられるようで、いろんな洪水とか土砂災害とかのエリアをずっと町内に当てはめていって、なおかつ海のほう、津波対策ですから、今よりも海に近づいていくということをやっていると、そんなに土地があるわけじゃないということを理解してほしいんですけども、要望書にしても、そういった細かい説明をさせていただく前に出てきておるといことが非常に残念なことでありまして、単なる今使っているがなくなるというところだけの視点で、何かそういう意見なり要望が出てきておりますので、十分な説明をさせていただきたいというふうに。

○田中教育委員長 それはしゃあないじゃないですか、それは自分とかが今やってたら、真っ先に考えるのはそのことだけですから。そんな周りの状況や広い視野で物を捉えてって、なかなか出てきにくいんじゃないですか。いいんじゃないですか、それはそれで。だから、どう対応するかということですから。

○北村教育委員長職務代行者 私自身も、本当この文書を読ませていただいて、半分わかってて出してるような気がしています。ただ、わあわあ言われて、出すに出されんって、出さんわけにはいかんなみたいな感じで、出されたんじゃないかなっていうふうに思っておりますけど。これは何をつくるにしても、何を減らすにしても、もう必ず、それは賛成だとか反対がどこにもありますが。さっき委員長が言われたように、僕らも委員会の中で何回も申し上げているように、都民ファーストじゃないけど、町民ファーストでやっぱり考えていただいて、やっぱり園が来たから、前にも話したけど、何か子供の声がしてうるさいとかね、そんなことではなしに、そういうところも説きといて、教育ですから、やっぱりこうなってきたら、なかで一緒になって、じゃあ、グラウンドゴルフの指導してもらったりとか、一緒になってやってもらったりだとか、前もちよっと話ししましたが、囲碁、園は普通に動いてるのに、園内の一つの教室、あいてる教室を使って、地域の方が囲碁を指してるだとか、そういうのはテレビで見たことありますし、非常に3世代というか、4世代になるかわからないけど、そういうふうな状況が和やかでとってもいいなというふうに思っています。それから、前もちらっと言いましたが、子育てする段階の中で、どうしても園が完全に閉まってしまうので、公園、子供らを日曜日に遊ばせる場所がないというふうに思いますので、そういうところを上手に計画を立てて、今度はあそこを子供が自由に入って、園の遊具なんかを使って遊べるような、そういう憩いの場所になるような設計、そういう管理にも考えてますよみたいなところを、やっぱりさっき、付加価値を

つけるんじゃないですけども、そういうような状況、今までとは違って、もっとオープンで開いたというか、まずは災害があった場合には、今度建物ができるんだから、そういうところで地域の方々は安全に避難ができますよみたいなところを、これからでしょうけども、アピールしていただければ、より一層の効果もあつたり、また皆さんの協力も、さっき委員長が言われたような協力も得られたり、いろんなお知恵が出てくるんじゃないかなというふうに思いますので、ぜひ、そういうところを早く全面に出していただければありがたいかなというふうに思います。3分の1お金が浮いたわけですから、浮いたわけっておかしいですけど、その部分を本当に実のある有効活用に使っていただければありがたいかなと思います。

○田中教育委員長 プラス志向いっぱいあります。

○岡本町長 いや、たくさんあると思うんですけど。

○田中教育委員長 たくさんあります。

○岡本町長 何かそこら辺のプラスの部分っていうのが、あんまり理解されていないっていうか、ちょっと我々も議会に報告して、それからいよいよ地元の皆さんに御説明申し上げると。そういう時間的な余裕が全くなく、これが出てきたもんですので、ちょっと、やや、そういう面では対応がおくれとるんですが。しっかりと説明していきたいというふうに思っておりますし、町にとっても悪いことではないし、そもそもの移転の話っていうのは、本当に非常な3.11を受けて、こういう話を進めてきたんですが、せんだって熊本であつたり、あるいは鳥取であつたり、本当に何が起ころうもおかしくない状況ですのでね。例えば日本海で地震が仮に熊本程度のずれが生じた場合、どうだったかって言われたらね、それはやっぱりここもはやらかなあかん、本当に日本海だったらどうなるかということを実感するんですわ。何が起ころうもおかしくないと。だから、何とか早いうちに計画どおりの年度で対応はしたいというふうに思っておりますけれども、そこら辺の理解も含めてですけど、いろんな難しいことがあると思いますけど、やっていきますので、中間報告という格好で、きょうは報告させていただきました。

○田中教育委員長 一つだけ、すごく雑談的にいいニュースを。ちょうど夢中の男子バレーかな。

○岡本教育長 県大会で優勝。

○田中教育委員長 その話が新聞に出るまでに、ちょっと僕に知つとるかっていうの

で、あんた知っているか、こんな情報は大事だからと言った人がおりました。でもな、新温泉町、こども園を移転して新築しようという動きで、今、頑張っとるらしいな。当然私らが言っても、それは夢のある話で、子供、少子化が進む中で、津波のことやそんなんがあるにしても、新しくそこへ従来と違う夢のある建物建てようとしている町っていうのはすごいと思うよと。期待しているし、ほかの人が参考になるようなもん、委員長、頑張っつくれよって言うから、僕がつくるわけじゃないけど、僕も思いは一緒ですわって言ったけども、いや、そういう新温泉町、そんな夢のある子供のことを手がけていこうっていうのはすごいと思うよって、関心を持って見るとわいって言ってくれた人がおります。他町の方でしたが、ありがたいなと思って。そのバレーの話にかけて、いや、新温泉町、それこそ地味に見える、さっき言ったおとなしくて地味に見えるけど、やることやっつるって、いっぱいもつと外に言え言えって言った人がおって、そういうことを言っておられました。だから、むしろそんな目で見えてくる人、あっ、動いてる、私は非常にありがたくそれを聞いたし、当然それに向かって、夢の実現の一つやがなっていうふうに、僕は言ってたけど。雑談ですけども、そんな目を見ていただいている方もいらっしゃるということをお伝えしておきます。

○岡本町長 ありがとうございます。一応、以上でこども園の整備検討状況についての御報告とさせていただきます。

次に、その他のほうに入らせていただきますけれども、事務局のほうで何かあるか。

○宇野こども教育課長補佐兼教育総務係長 次回の会議の日程ですが。

○岡本町長 次回の会議。その前に、その他のほうで。

○宇野こども教育課長補佐兼教育総務係長 その他のほうで。

○岡本町長 皆さん方のほうで受けたいと思いますけれども、どうでしょう。

○田中教育委員長 すごい爆弾的なことを言います。教育長と打ち合わせしたので。僕らは1年のうちに、教育委員はそれこそ教育の最前線の学校を見て、本当の部分ですけども、頑張っている先生方の支援をするという思いの中で、校長を含めて支援できたらという思いでよく歩いているんですけども、町長は学校の教育っていうのを見る場っていうのはあるんですか。

○岡本町長 いや、卒業式とかに入学式とか、そういうフォーマルなときしかね、ないですわ。

○田中教育委員長 大きな研究会があったら、呼ばれる。

○宇野こども教育課長補佐兼教育総務係長 ふだんの授業は見られないですね。

○田中教育委員長 私はいい意味で、何かの機会があったら、職員や子供がやってる場っていうのを町長みずから場に出て見ていただくことがあってもいいんじゃないかなって、これは全く私の意見。

○岡本町長 どうなんでしょうな、そこら辺は。私も、ややちょっとその部分、教育の現場をどうこうっていうことは、ややね、本来的には控えるべきだと。

○田中教育委員長 教育委員会というのがあって、教育長がいるわけですから。

○岡本町長 いうふうに、いや、見るのはええと思うんですけど、見てどうだったとか、何かそういうことではなしに。ただね、僕はいつも思うんですわ。子供らね、しっかり挨拶してくれるんですわ。こんにちはとかね、1人でも2人でも。外からでもです。その辺で会ったときに。すごくうれしいですわ。うれしいし、本当にええなというふうに思っております。授業しとるとこは見たことないですけどね。

○田中教育委員長 授業というのは、僕が言っとるのは、子供教育活動全般ですから、運動会だろうと、学習発表会だろうと、遠足だろうと何でいいんですけども、何か子供たちや職員が一生懸命教育をやっている、そういう現状を少しでも、一端でもいいから、触れる場をね、儀式では出てもらっていると思うんですけど、あのときは特別な場でしてね。私たちが特別です、子供たちも特別で、教育の場ですけども、何か例えて言うと運動会とか見られると思うんですけども、何か直接子供と触れるってことはまずありませんし、見ていただくことはあっても。何らかの形で、具体的なことは私、全くわからんわけですけども、さっきの子供たちも町民の一人として、形成者の一人だということからの発想です。思い。逆に、子供たちからも出てほしいけども、私たちのほうからも、ある程度接点を少しでも豊富化するという思いだけです。意識の問題かもしれません。私たちほとんどのところにふれますが、議会の議員さん、ほとんど関係ないみたいな。中学になって、やっ子ども議会のほうで、ああ、そうなのかというぐらい。何かないですよ。ちっちゃい町だからという、余計にという思いが、何かそういう人との触れ合い、コミュニケーションにおける人と人との関係が町をつくってる基盤だというふうに思ったら。何らかのことができんかな。

○岡本町長 実はね、先週の土曜日にね、友達というか、前の町長というか、ほかの町のですよ、2人来ておった。ほんで、海に案内しようかと思って、海に出て、そう

するとちょっと波が高かったんです。それで、牧場公園に上がろうかといって、牧場公園に2人連れて上がった。そしたら、町長、せっかくだけえ、リフトに乗んなれなっていて、リフトに乗せて、そしたら、子供が2人、わっーとスロープを走って上がりよるわけです。2人が、町長って言って、言うわけです、リフトに乗るのにね。そしたら、その市川と太子の前の町長が、私に向かってね、おまえ、あの子供ら知っとんかって言うけえな、いや、どこの子かわからんけど、わしのことは、子供らはそれなりに知っとるわいなって言ったら、はあって思って関心しとったんですわ、2人がね。ほんで、そこの照来かって言ったらね、南小ですって言って。そうかそうかって言って、ついあったんですけどね、そういう何か、ほかの町の前の町長がびっくりするぐらい、そんなシーンがありました。だけえ、私、ごっつうれしかったです。それくらい、うちの子供らはしっかりこう挨拶なり、そういうことができるとするか、日ごろの皆さん方の大変な努力の成果だというふうに思っております。

○北村教育委員長職務代行者 挨拶のことで言わせていただいたら、子供はすごくできるんですけども、大人ができない。

○岡本町長 大人ができんな。

○北村教育委員長職務代行者 はい。だから、本当に町民挙げて挨拶運動されたほうがいいような気がしますね。子供が、今農繁期で人がいるじゃないですか。おはようございますって言うじゃないですか。もう何か熱烈に言いますよ。そしたら、おっさんなんか知らん顔して。あれはいかがなもんかなって思いますよね。だから、その子は二度と言わんようになりますからね、その人に対してはね。何かそういうふうなのがちょっと目に見えますし、それに、PTAのほうからもやってると思いますけども、PTAのPのほうがね、やっぱり子供はしっかりしてるのに、Pがされないってというのはね、というのは本当にありますので。役で出るときはすごくされているんですけどね。それ以外のときには、何じゃらねんって思いますけどね。

○田中教育委員長 いいですね、僕はごっつい好きです、こういう話。教育長が言われた、うちみたいな規模で、小さくて、過疎に悩んでる、逆手にとって、だからこそ語れる、うちの教育の具体論について語ろうじゃないかみたいな、そんなことができたらね、いいと思いますね。むしろ、規定では、それは全部が教育ですから、政治の思いを積み重ねていくということは、これはやめるわけにいかんし、しなくちゃいけないけども、それにプラスして、我が町を語る教育をやっぱりやりたいな。教育だけ

にとどまらん、やっぱりそれは町行政とも密接にもこうなってます。

○北村教育委員長職務代行者 あと、済みません、「あいさつ・そうじ・あとしまつ」ののぼりがあるじゃないですか。あれは私、目の前に事務所がある関係で、すごく色が変わったりして、管理も結構よくて、ばたばたはためいてるんですけど、ほかのそこは見ないような気がするんですけど、そんなことはないですかね。

○岡本教育長 いや、照来のほうにも、飯野はまた違ったのもあるし。

○北村教育委員長職務代行者 飯野はまた違ったのがありますね、飯野と照来は見ます、見ます。あと、それから、要するに拠点になる北小周りですわ、ありますか、僕見たことないような気がします。

○岡本教育長 北小の周りにはないけど。

○北村教育委員長職務代行者 あれ同じように配られてるんじゃないかなと。

○岡本教育長 いや、配っております。青少年育成推進協議会で。

○田中教育委員長 配っている、配っている。

○北村教育委員長職務代行者 そこら辺もちよっと、こんな言葉悪いですけども、指導していただきたいなというふうに思いますね。

○田中教育委員長 保育園まで全部入れてね、こども園は全部入ってるね。

○岡本教育長 全部配っとるはずだけど。

○北村教育委員長職務代行者 でも、なぜ立ててないのかって。通学路に……。

○岡本教育長 南小なんか玄関のいったところに。

○北村教育委員長職務代行者 そうですね、坂道のところの、ちょうどフェンスでしたかね、もう完全に棒とかで、小学校のものなのか町のものなのか知りませんが、くくりつけてありますんでね、結束バンドで、パイプをね、そこにぽんと挿してありますので、また色が変わったなとか、何か思って。

○岡本教育長 いつまでこの挨拶というか後始末だという人、もっとステップアップしてとかいうね。

○北村教育委員長職務代行者 不易なもんですからね。

○岡本教育長 これは基本だからね。

○北村教育委員長職務代行者 だから、おまえもなれとか言われそうな気がしますけどね。だけど、基本だと思います。

○岡本教育長 あれ青推協が、青推協って書いてある。だから、その予算の中で。

○田中教育委員長　そうですね。

○岡本教育長　旗が傷んできたら、またね。ことしどうにかね。

○北村教育委員長職務代行者　あれ色が変わってるから。

○岡本教育長　色は変わってきます。

○北村教育委員長職務代行者　変わります、変わります。見ますけども、何せ、うちの前、小学校、しょっちゅう見るんですけども、いつも見ますからあれだけでも、北小見たことないなって、照来で見たことがあります。飯野にもある、飯野はまた大きなのがあるのを知ってますし。

○岡本教育長　塩山はしてあると思ったけど。

○北村教育委員長職務代行者　西小も何か見たことないなと思って。青推協、せっかくされてるのに、そういうのを、きちんとしていただきたいなと思いますね。

○岡本教育長　だけど、本当に県職だったり、県の土木だったり、税務署、豊岡税務署の署長だとか来たときの話ししとったら、本当にここ、子供がええ挨拶します。やっぱりいろんな人が言いますね。

○田中教育委員長　浜中なんて、よう教育できてますね。浜中でようやっていますわ。

○岡本町長　よう本当、中学生や高校生も言うで。

○北村教育委員長職務代行者　高校生言いますよ。

○岡本町長　高校生が。

○田中教育委員長　中学でごっついやっとするが。それに比べたら小学校は頑張らなあかん、言われとおりで。

○岡本町長　ほんまに感心するわ。そんなことで、予算ののぼりのことについては、教育長、しっかり、あなたの所掌ですので、よろしくお願いします。

そろそろいい時間になったというふうに思っております。一応協議・調整事項につきましては、これをもって議了させていただきました。

それでは、事務局のほうで、その他について、1点、皆さんにお願いがあるようであります。

○宇野こども教育課長補佐兼教育総務係長　次回の総合教育会議の日程ですが、時期的に例年11月に行っておりますけれども、それまででもどうでしょう。町長選が10月29日に予定をされておりますし。

○岡本町長　そういうことを書いてありますね。12月っていうことでどうでしょう。

○宇野こども教育課長補佐兼教育総務係長 12月でも。となると、教育委員さんの改選もあるところでありますし、どうかなというのが、ちょっと悩ましい問題ではあるんです。

○岡本教育長 それは北村委員と私ですか。

○北村教育委員長職務代行者 問題ない。

○宇野こども教育課長補佐兼教育総務係長 問題ない。

○岡本教育長 それはもうな、決まっとることだから。それでどうだとか。

○宇野こども教育課長補佐兼教育総務係長 10月はやめて、12月でやっぴりさせてもらって、12月はまた議会になりますしね、合間を縫ってするという手もなくはないですが。10月は子ども議会もあつたり。

○岡本町長 忘年会の前にするかな。

○宇野こども教育課長補佐兼教育総務係長 はい、例年の。

○岡本町長 例年のパターンか。

○宇野こども教育課長補佐兼教育総務係長 例年のパターンで、じゃあ。12月ですね。閉会のほうを岡本教育長のほうから、済みません、突然振りましたが、お願いいたします。

○岡本教育長 本当に総合教育会議ということで大変ありがとうございました。語れば切りがない教育の話でありますけど、基本計画のほうにしても、大綱にしても確認いただきましたし、こども園も先が明るいですね、本当にいい話として進めていただいているところでもあります。町長を交えて、こういう町の子供たちのこと、それから、町の未来を一緒に語れるということ、大変うれしいことだなというふうに思っているところであります。いろいろ目の前に課題がありますけども、事務局のほうも皆さんの御意見をしっかり現実のものにしていけるように努力していきたいと思しますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。きょうは本当にありがとうございました。

閉会 午前10時51分

会議の経過について、相違ないことを証しここに署名する。

平成 年 月 日

署名 新温泉町長

署名 新温泉町教育委員長